

平成28年4月18日、政策秘書課職員との話です。

遊びをせんとや 生まれけむ 戯れせんとや 生まれけん
遊ぶ子供の声きけば わが身さえこそゆるがるれ

平安時代末期に書かれた「^{りょうじんひしやう}梁塵秘抄」の一節です。

今から、35年前、私は、隠れて遊べる幼稚園を作ろうとしていたときにこの言葉に出会いました。

解釈は、いろいろとあるようですが、私は、「私たちは遊ぶために生まれてきた。楽しそうに遊んでいる子どもたちの声を聞くと、自分の体までも自然と動き出す」と解釈しています。

小さな子どもたちには、おもちゃがなくても、身近な草や土などを使って、自分で遊び方を見つける力があります。そうした子どもたちの遊ぶ声には、大人をも動かす力があるのです。

もう一つ、私が好きな言葉に、孔子の言葉で次のものがあります。

知之者不如好之者、好之者不如樂之者

これを知る人は、これを好きな人には及ばない。
これを好きな人も、これを楽しむ人には及ばない。

「これ」を例えば、野球に言い換えると、野球のルールを知っている人より、野球が好きな人より、野球を楽しんでいる人が一番だということです。

私たちは、インターネットやテレビを通じて、何でも知っている気になっていないでしょうか。でも、単に情報として知っていることよりも、実際にそれを見て、自分でやってみて、楽しんでいる人にはかなわないのです。そして、楽しんでいる人の周りには、自然と人が集まってくるものです。

この二つの言葉からも、遊ぶこと、楽しむことは、子どもだけでなく、誰にとっても大切だと私は思っています。

働く大人の間では、ワークライフ・バランスが叫ばれ、仕事上の責任を果たす一方で、仕事が終わったら家でゆっくりしたり、気分転換をしたりして、健康で豊かな生活がしたいと考えています。しかし、子どもの中には、学校から帰ってきてから、遊ぶ間もなく、夕食後に塾へ行き、夜遅くまで勉強をしている子どもいると聞きます。子どもたちにワークライフ・バランスは、関係ないのでしょ

か。

私は、今でも小・中学校の同級生と子どもの頃に遊んだ話で盛り上がることがあります。今の子どもたちを見ていると、将来、友達同士で遊んだ楽しい思い出が記憶に残るのか、心配になることがあります。

遊ぶこと、楽しむことの大切さを、子どもを持つ親だけでなく、地域全体で考えることが必要だと感じています。

～市長の話を聞いて～

子どもの頃の記憶では、道路に石で線を引いて「ケンケンパ」をしたり、「お母さんにプレゼント」とセイタカアワダチソウを摘んで帰ったら怒られたりと、外で遊んだ記憶がたくさん残っています。確かにおもちゃがなくても、自分達で遊んでいました。

以前、studio-L 代表の山崎亮さんが、「なでラボ」の発表会の中で、「自分で楽しさを生み出す力を身に付けた人は、一生楽しむことができる。そしてその楽しさは、誰かと共有した方がもっと楽しい」とおっしゃっていました。

確かに、今の私は、ショッピングだったり、旅行だったり、お金を出して、楽しみを得ているように思います。お金で買う楽しみだけではなく、自分で生み出した楽しみも探してみようと思います。